

平成30年度

〔2018〕

履修の手引

【在 学 生】



滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

本手引の内容は Web ポータルにも掲載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。
(トップページから「教育プログラム」へ進んでください。)

この冊子は 2017（平成 29）年度以前入学生用に、カリキュラムの変更点などをまとめたものです。自分の入学した年度の履修要件（卒業要件を含む）と併せて確認してください。

目 次

1 科目履修の手引の変更点

(1) Web 履修登録・確認・取消	1
(2) CAP制	1
(3) 気象警報発表・公共交通機関の不通と授業についての措置	1
(4) 授業の欠席	2
(5) 試験期間中における風雪時の対応について	3
(6) 成績通知	3
(7) 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について	3
(8) 他学部・他学科科目の履修について	4
(9) 授業評価アンケートの実施について	4

2 カリキュラム等の変更点

(1) 全学共通科目の履修について	5
(2) 学部学科科目の履修について	13
(3) 近江楽士（地域学）副専攻関連科目の履修について	20

滋賀県立大学 学位授与方針（ディプロマポリシー）

滋賀県立大学では、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を以下のとおり定めます。これらの能力を獲得するとともに、各学部 に所定の年限在学し、全学ならびに各学部・学科の定める教育理念・教育目的に沿って設定された教育プログラムや授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に学位を授与し、卒業を認定します。

学位：学士

- A. 「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等の「全学共通科目」の履修を通じて、基礎的な知識・技術を養うとともに、社会環境の変化に柔軟に対応できる豊かな人間性と、課題を発見、分析、解決する能力に加え、自ら探求する態度と姿勢を身につける。
- B. 各学部・学科の特性に応じて編成された体系的な教育を通じて、専門的な知識・技術を養うとともに、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につける。

滋賀県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

滋賀県立大学は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」として、未知の時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成するため、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

A. 全学共通科目

広い視野と実践力を養い、大学の目的である高度化・総合化および柔軟性・多様性を実現するため、「全学共通科目」として、外国語（英語、第2外国語）、健康・体力科学、情報処理の3科目群からなる「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等を設置します。

「人間学」では、主体的に学び、考える学生を育てることを意図して、「人間」という存在について具体的、現実的な問題を通して考え、人間と社会を深く見つめながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を身につけることを目指します。

B. 専門教育科目

専門的な知識や技能を高めるとともに、主体性、創造力および課題発見・解決能力等の育成を目指し、各学部・学科に専門教育科目を設置します。

各学部・学科の専門科目の編成に関しては、専門基礎科目（学部共通科目）、複数学科共通科目、学科専門科目といった構成およびその配当年次によって、基礎的科目から発展（応用）的科目への学習の流れに沿って展開します。

C. 副専攻

主専攻の学びを更に社会で活用できる能力を養うため、学部学科を横断した教育プログラムとして、近江楽士（地域学）副専攻を設置します。

副専攻では、「地域に根ざし、地域に学び、地域を学ぶ大学」として、地域・地元志向の授業科目を設置し、コミュニケーション力・構想力・実践力の3つの要素からなる変革力を養成します。

1 科目履修の手引の変更点

(1) Web 履修登録・確認・取消（平成 26 年度から一部変更、平成 30 年度から一部変更）

学年当初に「履修登録にあたって」と時間割を配布します。原則として、前期初めに設定される履修登録期間中に USPO で 1 年間分の履修登録をおこなってください。登録内容を確認するため履修登録確認期間を設けていますので、登録内容に間違いがないか必ず確認してください。各期の履修登録確認期間後の履修登録・変更はできません。

※履修登録確認・取消期間（前期：4 月下旬～5 月上旬、後期：10 月下旬）

履修登録期間後に各自で履修登録科目を確認する期間を設けており、履修登録期間内に登録した科目の追加・修正、あるいは取消が可能です。実際に出席していても履修登録がない科目は評価の対象となりません。また登録した科目については評価の対象となり GPA にも反映されます（一部除外あり）。この期間以外での追加・修正・取消は一切認めませんので、必ず各自で確認をしてください。

①履修登録の追加・修正

履修登録期間に登録した科目が間違っていたり、すでに登録した科目を取りやめて他の科目を履修したい場合、あるいは追加で科目を登録したい場合に、履修登録の追加・変更が可能です。科目の追加・修正を希望する場合は、指定された期間内に教務課で手続きをしてください。

②履修登録の取消

実際に授業に出席したものの、履修登録時に予想していた内容と異なっていたなどの理由により、履修登録を取り消すことも可能です。科目の取消を希望する場合は USPO より所定の期間内に手続きをしてください。ただし、取り消すことのできる科目数は 2 科目までとします。また、必修科目の登録を取り消すことはできません。

(2) CAP 制（平成 30 年度から導入）

平成 30 年度入学生からは、1 年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定める CAP 制を導入しました。本学ではこの上限を 49 単位とします。ただし、この制度の対象となるのは、平成 30 年度以降に入学した学部生のみとなります。3 年次編入生および平成 29 年度以前に入学した学生は制度の適用を受けませんので、従来どおり履修登録をしてください。

CAP 制の適用は受けませんが、授業内容を深く真に身につけるため、学修すべき授業科目を精選し、しっかりとした学修計画を立てるようにしてください。

(3) 気象警報の発表・公共交通機関の不通と授業についての措置

（平成 27 年度から一部変更、平成 30 年度から一部変更）

暴風警報等が発表された場合または公共交通機関が全面運行停止（※）となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象・交通状況	授業についての措置
彦根市域または彦根市域を含む地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報が発表されたとき	①警報発表中は休講（授業中に警報発表の場合、その次の授業から休講） ②午前 6 時 30 分現在、警報発表中の場合、午前中は休講 ③午前 10 時までに警報解除の場合、午後から授業を行う ④午前 10 時現在、警報発表中の場合、午後も休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき（ストライキ、災害、台風等）	①午前 6 時 30 分現在、運行停止の場合、午前中は休講 ②午前 10 時までに運転再開の場合、午後から授業を行う ③午前 10 時現在、運行停止の場合、午後も休講
その他	不測の事態の発生を起因として、学長が授業を行うことが困難と認める場合、必要な範囲で休講等の措置を行うことがあります。

※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、原則として、JR 西日本琵琶湖線（京都～米原間）の全線または一部線区が全便不通（一時的な運転見合わせは除く）の場合をさします。

○休講情報については随時更新されますので、掲示板および USPO で確認してください。

○学外実習に関しては、当該学部で別途定めます。

(4) 授業の欠席（平成27年度から一部変更）

病気その他やむを得ない理由により、引き続き7日以上2か月以内（7日未満の特例あり）、授業に出席することができない場合は、あらかじめ教務課に所定の欠席届を提出してください。やむを得ない事情により事前に欠席届が提出できない場合は、欠席事由が解消した後1週間以内に教務課に欠席届を提出してください。教務課では、提出された欠席届の内容を確認後、届の写しを交付しますので、それを持参の上、届出者本人が直接、当該科目の授業担当教員に対し、事情を説明してください。欠席届を受理した科目は、欠席として取り扱いません。

ただし、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務課の指示に従ってください。

また、緊急の事情により事前に届け出られない場合は、事前に電話等により事情を教務課に連絡してください。

注1) 欠席理由の如何を問わず、授業科目の成績評価等に関する取扱いについては、担当教員の判断によることとします。

注2) 集中講義については、日程の確定時期が履修登録期間後になった場合、あるいは日程変更により総授業時間の1/3以上出席できなくなった場合に限り履修取消を認めますので、当該講義開始前に教務課で手続きをしてください。

欠席を届け出る理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書
災害	被災証明書
交通事故、交通機関の運休	事故証明書、運休・延着証明書
3親等以内の葬儀	死亡に関する公的証明書（会葬礼状等）
正課実習	実習証明書（指定様式）
その他大学が認める理由	理由書（本人以外の証明）

7日未満の特例：以下の欠席理由については、7日未満であっても、欠席届を受理します。

- ① 「病気・けが」のうちインフルエンザ等の感染症（学校保健安全法施行規則第18条に記載された感染症）にかかり欠席する場合、同法19条に記載された出席停止期間の欠席を認める。

主な感染症	出席停止期間
新型インフルエンザ	治癒するまで
インフルエンザ	発症した後（発症の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ解熱した後2日
百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
麻疹（はしか）	解熱後3日
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発生した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
風しん	発しんが消失するまで
水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退後2日

- ② 「交通機関の運休」で欠席する場合

③ 「3親等以内の葬儀」で欠席する場合（忌引き）

葬儀の日を含む下表の日数(土曜・日曜・祝日を含む連続した日数)を限度とする

死亡した者	欠席できる日数	
配偶者	10日	
	血族	姻族
父母	7日	3日
子	5日	1日
祖父母	3日	1日
兄弟姉妹	3日	1日
おじ・おば・曾祖父母等	1日	1日

④ 下の「その他大学が認める理由」で欠席する場合

- ・ 課外活動において全国大会またはそれと同等以上の大会に出場する場合
- ・ 湖風祭の前日準備に参加する場合（前日準備が全学休講でない場合に限る）
- ・ 就職活動（最終選考相当）

(5) 試験期間中における風雪時の対応について（平成 29 年度から一部変更）

原則として、試験日程は風雪等の天候とは関係なく、予定どおり実施します。ただし、各試験科目の担当教員が試験延期等の判断を行う場合がありますので、USPo に注意しておいてください。

また、試験当日に公共交通機関に遅れが生じた場合は、適宜、実施について判断します。

(6) 成績通知（平成 27 年度から一部変更）

成績の通知については、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務課から本人に対し USPo を通じて行います。

また、入学手続き時に保護者（保証人）（以下「保護者等」といいます）から「成績通知書郵送不要確認書」の提出がない場合は、各学期終了後に保護者等あてに成績通知書を郵送します。20 歳以上の学生で、「成績通知書郵送停止届」を提出した者には、保護者等あてに成績通知書を郵送しないこととします。この場合、保護者等には学生本人の意向により、成績通知書を郵送しない旨の通知を行うこととします。

なお、前期の成績通知書には、前期に履修した科目（一部集中講義科目等を除く）の成績を記載しています。後期の成績通知書には、前期と後期を合わせた年間の成績を記載しています。

(7) 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について（平成 27 年度から一部変更）

本学では、学生は自らの成績評価に疑義のある場合、その成績の根拠等について当該科目の担当教員に対して開示を求めることができます。

① 疑義申し立てができる場合

- ・ 出席、課題提出、試験等に照らして、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・ シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法及び基準等から、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・ その他、具体的かつ明確な理由をもって成績評価に疑義があると思われる場合

② 手続き等について

まずは当該科目の担当教員に対し、直接確認を求めてください。オフィスアワー等を活用して担当教員を訪ねましょう。

担当教員から教示がない場合、あった場合でも説明が足りない、明確な根拠が示されていない等の事由により疑義が解消されない場合、または非常勤講師等により直接の確認が困難な場合に限り、「成績評価の疑義申し立ておよび根拠等にかかる開示の願出書」により、学生支援センター長（学生支援センター教務担当）を通じて成績評価の根拠等について文書により開示するようお願いすることができます。

③ 制度による願出ができる期間

担当教員への確認および願出書の提出ができる期間は、成績が通知された日から原則として3週間以

内とします。成績保留等により成績通知書に記載されなかった科目については、当該科目の成績の確定について掲示された日から原則として3週間以内とします。期限を過ぎたものは受付できません。

願出書の様式や、その他詳細については、教務課担当までご相談ください。

(8) 他学部・他学科科目の履修について（平成 27 年度から変更）

工学部では、他学部・他学科科目の履修方法を下記のように変更しました。

○ 材料科学科

他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度として、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、材料科学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

○ 機械システム工学科

工学部他学科専門科目、他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度として、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、工学部他学科専門科目および他学部開設科目の履修を希望するときは、機械システム工学科長の許可を得た後に、その科目を担当する教員の許可を受けること。

○ 電子システム工学科

電子システム工学科の科目配当表に指定する専門科目以外に、工学部他学科の科目配当表に指定する専門科目も、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、履修を希望する科目を担当する教員の許可を受けること。

他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、電子システム工学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

(9) 授業評価アンケートの実施について（平成 28 年度から一部変更）

授業評価アンケートは、授業内容やカリキュラムの改善などに取り組むため、授業に対する学生のみなさんの意見を聞くために実施しています。対象科目は、原則、教員一人あたり前期と後期の各一科目を選定します。いただいた意見は今後役に立ていきたいので、みなさんの真摯な協力をお願いします。

実施にあたっては、該当授業中に担当教員から指示があります。中間アンケートは USPo による Web アンケート、期末については専用のマークシート用紙による記述式で行います。

なお、担当教員には集計結果のみが示されるため、個人を特定する情報が提供されることはありません。

2 カリキュラム等の変更点

(1) 全学共通科目の履修について

① 再履修について

前年度に不合格となった科目は、今年度改めて履修することができます。修得済みの科目については、再履修することができません。再履修にあたって他の必修科目との重複により履修できない場合がありますが、どうしても再履修が必要な場合は、各自の所属する学科長に相談してください。

なお、全学共通科目の再履修についてはおおむね以下のとおりですが、詳細については科目担当教員または教務課まで相談してください。

■第一外国語

英語 I A～IVB のいずれかが前年度に不合格となった場合は、金曜日 5 時限目に開講される英語 I A～IV B (再履修) のうち、不合格に対応するものを履修してください。なお、時間割の都合上 (金曜日に別の必修科目がある、複数の英語が不合格となっている場合に限る。)、不合格に対応する英語 (再履修) を履修することができない場合は、所属学部の英語 I A～IVB の中から不合格となった科目を履修してください。登録はUSPoではできません。別途、教務課窓口で「履修許可願」を提出する必要があります。

■第二外国語科目 (実用英語演習を含む)

これまで履修してきた言語を再履修してください。原則として言語の変更はできません。受講クラスは、人数の調整の上、決定しますので、事前に教務課窓口まで来てください。登録はUSPoではできません。別途、教務課窓口で「履修許可願」を提出する必要があります。

「第二外国語 I A・I B」を履修したが単位を修得できなかった場合で、やむを得ず第二外国語の I A・I B と II A・II B を同時に履修するときは、必ず第二外国語の担当教員の了承を得てください。

■情報処理科目

「情報リテラシー」、「情報科学概論」のいずれかがこれまでに不合格となっている場合は、当該科目を再履修してください。再履修にあたっては、情報教育担当教員に相談し、その指示に従ってください。登録はUSPoではできません。別途、教務課窓口で「履修許可願」を提出する必要があります。

■健康・体力科学

2 回生以上の学生でこれまでに、健康・体力科学 I、II のいずれかが不合格となっている場合は、健康・体力科学担当教員に相談し、クラス分け等の指示に従ってください。登録はUSPoではできません。別途、教務課窓口で「履修許可願」を提出する必要があります。

② 読替えについて

入学年度により、下記に示した新科目名は、旧科目名に読み替えます。ただし、旧科目名で単位を修得した科目については、新科目名で新たに単位を修得することはできません。

■外国語科目

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成 27 年度以前入学生	英語会話(中級)	Integrated English	
	ディベート&ディスカッション	Introduction to Discussion & Debate	
	英語表現法		廃止
	エッセイ・ライティング	Essay Writing	
	留学英語対策基礎講座	Intermediate Academic English	
	留学英語対策講座Ⅰ	Advanced Academic English I	
	留学英語対策講座Ⅱ	Advanced Academic English II	
	ビジネス英語		廃止
	時事英語		廃止
	メディアの英語	English in Media	
	—	English for Business	【新科目】 「ビジネス英語」未履修者のみ履修可

■人間学科目・地域基礎科目

人間学科目は、毎年度の科目構成の見直しにより、入学時の履修の手引き記載の開講科目から変更点が多くあります。次ページ以降に、入学年度ごとにその変更点をまとめたカリキュラム表を掲載しますので、入学時の履修の手引きと併せて確認の上、履修計画を立てるようにしてください。

特に、専門科目として分類される科目や読替えのある科目には十分注意してください。

○人間学科目の卒業要件

(2010 年度～2014 年度入学生)		必修科目	2 科目 4 単位	選択科目	4 科目 8 単位
(2015 年度以降入学生)	<人間学>	必修科目	1 科目 2 単位	選択科目	3 科目 6 単位
	<地域基礎>	必修科目	1 科目 2 単位	選択科目	1 科目 2 単位

2012（平成24）年度入学生用人間学科目一覧

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	「環境マネジメント総論」		2	廃止 「地域共生論」で読替え
	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権（同和問題）		2	
	比較文明論		2	廃止 地域は専門科目扱い
	セルフケア論（心理臨床論）		2	廃止
	人間にとって環境とは何か		2	廃止
	環境行動論		2	廃止 政策/建築は専門科目扱い
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
しくみ (Social Studies)	現代経済論		2	
	びわ湖環境行政論		2	
	〔近江文化論〕	200	2	名称変更「近江の歴史と文化」で読替え
	異文化理解A		2	海外短期研修（アメリカ）
	異文化理解B		2	海外短期研修（中国）
	若者の健康と栄養		2	廃止
	地元学入門		2	廃止
	〔社会福祉論〕	200	2	名称変更「地域社会福祉論」で読替え 看護は必修・優先
	性を考える	200	2	廃止
	〔地域探求学〕		2	名称変更「地域コミュニケーション論」で読替え
	国際協力論		2	偶数年度開講
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	農業問題入門		2	廃止
〔国際環境マネジメント〕		2	名称変更「アジア・フィールド実習Ⅰ」で読替え	
ビジネス・マネジメント入門		2	廃止	
しぜん (Natural Sciences)	自然保護論		2	
	人間と自然界		2	廃止
	滋賀の自然史	200	2	廃止
	材料史		2	
	自然科学の視点		2	
	〔空間計画論〕		2	廃止
	自然現象のしくみ		2	
	水環境政策論		2	廃止 生態/政策/資源は専門科目扱い
わざ (Technology)	こころのテクノロジー	250	2	
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	
	比較都市論		2	
	〔機械技術と人間〕		2	名称変更「機械の再発見」で読替え
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	200	2	デザ 関係は専門科目扱い 教職希望者優先
	遺伝子と社会		2	廃止
	栄養と人間		2	廃止 看護の専門科目とし「栄養学」へ名称変更
明日から使える食のテクニク		2	廃止	
生活と健康	200	2		
追加科目	人間の行動と空間		2	廃止 「環境行動論」修得者は履修不可 看護は卒業要件外
	現代社会と若者		2	廃止 看護は卒業要件外
	Medieval Japan		2	廃止 看護は卒業要件外 使用言語：英語
	Modernizing Japan		2	廃止 看護は卒業要件外 使用言語：英語
	地域づくり人材論		2	追加 看護は卒業要件外
	植物の病気		2	追加 看護は卒業要件外
	アジア・フィールド実習Ⅱ		2	追加 「国際環境マネジメント」修得者のみ履修可
	近江の暮らしとなりわい		2	追加
	近江の美		2	追加
	Medieval Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	キャリアデザイン		2	追加
	History of Japanese Cinema		2	追加 使用言語：英語
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	追加 使用言語：英語
	Model United States of America		2	追加 使用言語：英語
	Model United Nations		2	追加 使用言語：英語
	川の未来学		2	追加 環境は「環境学原論」に読替え
	考えるための道具(キャリア教育関連)		2	追加 【副題】キャリアデザイン基礎
	キャリアデザイン特講(キャリア教育関連)		2	追加 【副題】ビジネス現場におけるキャリアデザイン
農業と環境		2	追加	

2013 (平成25) 年度入学生用人間学科目一覧

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	「環境マネジメント総論」		2	廃止 「地域共生論」で読替え
	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権 (同和問題)		2	
	比較文明論		2	廃止 地域は専門科目扱い
	セルフケア論 (心理臨床論)		2	廃止
	人間にとって環境とは何か		2	廃止
	人間の行動と空間		2	廃止
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
しくみ (Social Studies)	現代経済論		2	
	びわ湖環境行政論		2	
	「近江文化論」	200	2	名称変更「近江の歴史と文化」で読替え
	異文化理解A		2	海外短期留学 (アメリカ)
	異文化理解B		2	海外短期留学 (中国)
	若者の健康と栄養		2	廃止
	地元学入門 (副専攻科目)		2	廃止
	「社会福祉論」	200	2	名称変更「地域社会福祉論」で読替え 看護は必修・優先
	性を考える	200	2	廃止
	「地域探求学 (副専攻科目)」		2	名称変更「地域コミュニケーション論」で読替え
	国際協力論		2	偶数年度開講
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	農業問題入門		2	廃止
	「国際環境マネジメント」		2	名称変更「アジア・フィールド実習Ⅰ」で読替え
	ビジネス・マネジメント入門		2	廃止
	現代社会と若者		2	廃止
	憲法		2	
	Medieval Japan		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan		2	廃止 使用言語：英語
	地域づくり人材論 (副専攻科目)		2	
しぜん (Natural Sciences)	自然保護論		2	
	滋賀の自然史	200	2	廃止
	材料史		2	
	自然科学の視点		2	
	「空間計画論」		2	廃止
	自然現象のしくみ		2	
水環境政策論		2	廃止 生態/政策/資源は専門科目扱い	
わざ (Technology)	こころのテクノロジー	250	2	
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	
	比較都市論		2	
	「機械技術と人間」		2	名称変更「機械の再発見」で読替え
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	200	2	デザ、関係は専門科目扱い 教職希望者優先
	栄養と人間		2	廃止 看護の専門科目とし「栄養学」へ名称変更
	明日から使える食のテクニック		2	廃止
	生活と健康	200	2	
植物の病気		2		
追加科目	アジア・フィールド実習Ⅱ		2	追加 「国際環境マネジメント」修得者のみ履修可
	近江の暮らしとなりわい		2	追加
	近江の美		2	追加
	Medieval Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	キャリアデザイン		2	追加
	History of Japanese Cinema		2	追加 使用言語：英語
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	追加 使用言語：英語
	Model United States of America		2	追加 使用言語：英語
	Model United Nations		2	追加 使用言語：英語
	川の未来学		2	追加 環境は「環境学原論」に読替え
	考えるための道具 (キャリア教育関連)		2	追加 【副題】 キャリアデザイン基礎
	キャリアデザイン特講 (キャリア教育関連)		2	追加 【副題】 ビジネス現場におけるキャリアデザイン
	農業と環境		2	追加

2014 (平成26) 年度入学生用人間学科目一覧

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	〔環境マネジメント総論〕		2	廃止 「地域共生論」で読替え
	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権 (同和問題)		2	
	比較文明論		2	廃止 地域は専門科目扱い
	セルフケア論 (心理臨床論)		2	廃止
	人間にとって環境とは何か		2	廃止
	人間の行動と空間		2	廃止
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
しくみ (Social Studies)	現代経済論(キャリア教育推奨)		2	
	びわ湖環境行政論		2	
	〔近江文化論〕	200	2	名称変更 「近江の歴史と文化」で読替え
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	
	若者の健康と栄養		2	廃止
	地元学入門(副専攻科目)		2	廃止
	〔社会福祉論〕	200	2	名称変更 「地域社会福祉論」で読替え 看護は必修・優先
	性を考える	200	2	廃止
	〔地域探求学(副専攻科目)〕		2	名称変更 「地域コミュニケーション論」で読替え
	国際協力論		2	偶数年度開講
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	農業問題入門		2	廃止
	〔国際環境マネジメント〕		2	名称変更 「アジア・フィールド実習Ⅰ」で読替え
	現代社会と若者(キャリア教育推奨)		2	廃止
憲法(キャリア教育推奨)		2		
Medieval Japan		2	廃止	
Modernizing Japan		2	廃止	
地域づくり人材論(副専攻科目)		2		
しぜん (Natural Sciences)	自然保護論		2	
	滋賀の自然史	200	2	廃止
	材料史	200	2	
	自然科学の視点		2	
	空間論		2	廃止
	自然現象のしくみ		2	
水環境政策論		2	廃止 生態/政策/資源は専門科目扱い	
わざ (Technology)	こころのテクノロジー	250	2	
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	
	比較都市論		2	
	〔機械技術と人間〕		2	名称変更 「機械の再発見」で読替え
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	200	2	デザ、関係は専門科目扱い 教職希望者優先
	栄養と人間		2	廃止 看護の専門科目とし「栄養学」へ名称変更
	明日から使える食のテクニク		2	廃止
生活と健康	200	2		
植物の病気		2		
追加科目	アジア・フィールド実習Ⅱ		2	追加 「国際環境マネジメント」修得者のみ履修可
	近江の暮らしとなりわい		2	追加
	近江の美		2	追加
	Medieval Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	キャリアデザイン		2	追加
	History of Japanese Cinema		2	追加 使用言語：英語
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	追加 使用言語：英語
	Model United States of America		2	追加 使用言語：英語
	Model United Nations		2	追加 使用言語：英語
	川の未来学		2	追加 環境は「環境学原論」に読替え
	考えるための道具(キャリア教育関連)		2	追加 【副題】 キャリアデザイン基礎
	キャリアデザイン特講(キャリア教育関連)		2	追加 【副題】 ビジネス現場におけるキャリアデザイン
	農業と環境		2	追加

2015（平成27）年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
	差別と人権（同和問題）		2	
	人間にとって環境とは何か		2	廃止
	人間の行動と空間		2	廃止
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
こころ (Ethics)	思索の視点 <small>(キャリア教育推奨)</small>	100	2	「考えるための道具」に名称変更
	現代経済論 <small>(キャリア教育推奨)</small>		2	
しくみ (Social Studies)	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	
	性を考える	200	2	廃止
	国際協力論		2	偶数年度開講
	農業問題入門		2	廃止
	国際環境マネジメントⅠ		2	「アジア・フィールド実習Ⅰ」に名称変更
	国際環境マネジメントⅡ		2	「アジア・フィールド実習Ⅱ」に名称変更
	憲法 <small>(キャリア教育推奨)</small>		2	
	Medieval Japan		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan		2	廃止 使用言語：英語
しぜん (Natural Sciences)	自然保護論		2	
	材料史		2	
	自然科学の視点		2	
	空間論		2	廃止
	自然現象のしくみ		2	
わざ (Technology)	こころのテクノロジー	250	2	
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	
	比較都市論		2	
	機械の再発見		2	
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	200	2	デザ、関係は専門科目扱い 教職希望者優先
	栄養と人間		2	廃止 看護の専門科目とし「栄養学」へ名称変更
	生活と健康	200	2	
	植物の病気		2	
追加科目	Medieval Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	キャリアデザイン <small>(キャリア教育推奨)</small>		2	追加
	History of Japanese Cinema		2	追加 使用言語：英語
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	追加 使用言語：英語
	Model United States of America		2	追加 使用言語：英語
	Model United Nations		2	追加 使用言語：英語
	川の未来学		2	追加 環境は「環境学原論」に読替え
	考えるための道具 <small>(キャリア教育関連)</small>		2	追加 【副題】キャリアデザイン基礎
	キャリアデザイン特講 <small>(キャリア教育関連)</small>		2	追加 【副題】ビジネス現場におけるキャリアデザイン
農業と環境		2	追加	

■地域基礎科目

クラスター	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
	地域コミュニケーション論		2	
選択必修	近江の歴史と文化		2	
	地域社会福祉概論		2	
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	滋賀の自然史		2	廃止
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義		2	
	近江の暮らしとなりわい		2	
	近江の美		2	

2016 (平成28) 年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラス	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権 (同和問題)		2	
	人間にとって環境とは何か		2	廃止
	人間の行動と空間		2	廃止
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	思索の視点(キャリア教育推奨)	100	2	「考えるための道具」に名称変更
しくみ (Social Studies)	現代経済論(キャリア教育推奨)		2	
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	
	性を考える	200	2	廃止
	国際協力論		2	偶数年度開講
	農業問題入門		2	廃止
	国際環境マネジメントⅠ		2	「アジア・フィールド実習Ⅰ」に名称変更
	国際環境マネジメントⅡ		2	「アジア・フィールド実習Ⅱ」に名称変更
	憲法(キャリア教育推奨)		2	
	Medieval Japan		2	廃止 使用言語：英語
	Medieval Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan		2	廃止 使用言語：英語
	Modernizing Japan in the World		2	廃止 使用言語：英語
キャリアデザイン(キャリア教育推奨)				
しぜん (Natural Sciences)	自然保護論		2	
	材料史		2	
	自然科学の視点		2	
	自然現象のしくみ		2	
わざ (Technology)	こころのテクノロジー	250	2	
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	
	比較都市論		2	
	機械の再発見		2	
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	200	2	デザ、関係は専門科目扱い 教職希望者優先
	生活と健康	200	2	
	植物の病気		2	
追加科目	History of Japanese Cinema		2	追加 使用言語：英語
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	追加 使用言語：英語
	Model United States of America		2	追加 使用言語：英語
	Model United Nations		2	追加 使用言語：英語
	川の未来学		2	追加
	考えるための道具(キャリア教育関連)		2	追加 【副題】 キャリアデザイン基礎
	キャリアデザイン特講(キャリア教育関連)		2	追加 【副題】 ビジネス現場におけるキャリアデザイン
農業と環境		2	追加	

■地域基礎科目

クラス	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論		2	
	近江の歴史と文化		2	
	地域社会福祉概論		2	
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	滋賀の自然史		2	廃止
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義		2	
	近江の暮らしとなりわい		2	
	近江の美		2	

2017（平成29）年度入学生用人間学・地域基礎科目一覧

■人間学

クラス	科目	定員	単位	備考
必修	人間探求学		2	
こころ (Ethics)	差別と人権（同和問題）		2	
	生命・人間・倫理		2	看護は必修
	思索の視点 <small>(キャリア教育推奨)</small>	100	2	「考えるための道具」に名称変更
しくみ (Social Studies)	現代経済論 <small>(キャリア教育推奨)</small>		2	
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	
	国際協力論		2	偶数年度開講
	農業問題入門		2	廃止
	国際環境マネジメントⅠ		2	「アジア・フィールド実習Ⅰ」に名称変更
	国際環境マネジメントⅡ		2	「アジア・フィールド実習Ⅱ」に名称変更
	憲法 <small>(キャリア教育推奨)</small>		2	
	History of Japanese Cinema		2	使用言語：英語
	Patterns in Japanese Culture & Society		2	使用言語：英語
Model United States of America		2	使用言語：英語	
Model United Nations		2	使用言語：英語	
キャリアデザイン <small>(キャリア教育推奨)</small>				
しぜん (Natural Sciences)	自然保護論		2	
	材料史		2	
	自然科学の視点		2	
	自然現象のしくみ		2	
わざ (Technology)	こころのテクノロジー	250	2	
	人間と病気		2	
	持続的農業論		2	
	比較都市論		2	
	機械の再発見		2	
	電子社会と人間		2	
	比較住居論	200	2	デザ、関係は専門科目扱い 教職希望者優先
	生活と健康	200	2	
植物の病気		2		
川の未来学		2		
追加科目	考えるための道具 <small>(キャリア教育関連)</small>		2	追加 【副題】 キャリアデザイン基礎
	キャリアデザイン特講 <small>(キャリア教育関連)</small>		2	追加 【副題】 ビジネス現場におけるキャリアデザイン
	農業と環境		2	追加

■地域基礎科目

クラス	科目	定員	単位	備考
必修	地域共生論		2	
選択必修	地域コミュニケーション論		2	
	近江の歴史と文化		2	
	地域社会福祉概論		2	
	地域づくり人材論		2	
	びわこ環境行政論		2	
	多文化共生論		2	奇数年度開講
	地域産業・企業から学ぶ社長講義		2	
	近江の暮らしとなりわい		2	
	近江の美		2	

(2) 学部学科科目の履修について

卒業要件単位数は入学年度の履修の手引で確認してください。

① 読替えについて

入学年度により、下記に示した新科目名は、旧科目名に読み替えます。ただし、旧科目名で単位を修得した科目については、新科目名で新たに単位を修得することはできません。

■環境生態学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成25年度以前入学生	水文学	環境水文学	
平成27年度以前入学生	河川環境学	環境地下水学	
	環境学原論	—	廃止。「川の未来学」で読替え
	生物統計学	生物資源統計学 I	

■環境政策・計画学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成25年度以前入学生	水文学	環境水文学	
	コミュニティ計画論	サステイナブルデザイン論	
平成27年度以前入学生	イベント計画論・演習	環境政策デザイン論・演習	
	環境倫理学	環境公正論	
	環境情報演習		廃止
	—	環境情報	【新科目】「環境情報演習」未履修者のみ履修可
	地域再生システム論	—	廃止。「地域デザインA」で読替
平成29年度以前入学生	環境学原論	—	廃止。「川の未来学」で読替え
	環境経営論	環境経営学	

■環境建築デザイン学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成25年度以前入学生	コミュニティ計画論	サステイナブルデザイン論	
	環境共生デザイン	環境共生論	
	地域産学連携実習	地域産学連携実習 I または 地域産学連携実習 II	
平成27年度以前入学生	環境倫理学	環境公正論	
	—	建築デジタルデザイン基礎	卒業要件に含めることができる
	地域再生システム論	—	廃止。「地域デザインA」で読替
	環境学原論	—	廃止。「川の未来学」で読替え

■生物資源管理学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成25年度以前入学生	水文学	環境水文学	
	魚類生理学	魚類学	
平成26年度以前入学生	—	養魚飼科学	卒業要件に含めることができる
平成27年度以前入学生	生物統計学	生物資源統計学Ⅰ	
	農業統計利用論	生物資源統計学Ⅱ	
	家畜生産生理学	家畜生産学	
	河川環境学	環境地下水学	
平成29年度以前入学生	環境学原論	—	廃止。「川の未来学」で読替え
	食料経済システム論	廃止	平成32年度から廃止

■材料科学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成25年度以前入学生	材料科学実験	材料科学実験Ⅰ 材料科学実験Ⅱ	
	卒業研究	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	
平成26年度以前入学生	材料力学Ⅰ	材料力学	

■機械システム工学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成26年度以前入学生	分析化学	(分析化学)	材料科学科科目で受講
	微積分統論	(微積分統論)	電子システム工学科科目で受講
	分析・環境化学実験	(分析・環境化学実験)	材料科学科科目で受講
	化学工学	(化学工学)	材料科学科科目で受講
	統計熱力学	廃止	
	現代制御工学	廃止	
	工業数理	廃止	
	動力システム	廃止	
平成28年度以前入学生	—	機械四力学演習	卒業要件に含めることができる
	機械システム工学実験Ⅰ 機械システム工学実験Ⅱ	機械工学基礎実験 機械システム創造実験	平成31年度から開講 平成31年度から開講

■電子システム工学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成25年度以前入学生	電子システム工学演習Ⅲ	電気電子設計製図	
	情報理論	通信情報理論	
	マルチメディア	通信システム工学	
	インターネット工学	通信ネットワーク工学	

■地域文化学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成27年度以前入学生	Japanese Culture and Civilization	廃止	
	比較宗教論	廃止	
	比較文学論	廃止	
	—	地域と行政	卒業要件に含めることができる
平成28年度以前入学生	—	地域と経済	卒業要件に含めることができる
	社会調査実習	地域社会調査実習	
平成29年度以前入学生	現代社会論	国際社会論	

■生活デザイン学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成26年度以前入学生	—	服飾文化論	卒業要件に含めることができる
平成27年度以前入学生	Japanese Culture and Civilization	廃止	

※平成29年度以降に生活デザイン学科専門科目として開講される「木匠塾」は、平成28年度以前入学生は履修できない。履修希望者は、「生活デザイン学外実習」を履修すること。

※平成30年度以降に生活デザイン学科専門科目として開講される「食物学」「保育学」「生活工学」は、平成29年度以前入学生は履修できない。

■生活栄養学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成27年度以前入学生	Japanese Culture and Civilization	廃止	
平成29年度以前入学生	健康心理学	廃止	平成32年度から廃止
	臨床栄養学実習Ⅲ	廃止	平成32年度から廃止
	栄養と健康	廃止	平成32年度から廃止
	食料経済システム論	廃止	平成32年度から廃止

※平成30年度カリキュラム改正に伴う読替えについては、新カリキュラム開講年度に合わせて順次掲載します。

■人間関係学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成24年度以前入学生	教育方法の理論と技術	教育方法論	
平成26年度以前入学生	人間形成論	人間形成論 A 人間形成論 B	
	生徒指導論	生活と教育	
平成27年度以前入学生	Japanese Culture and Civilization	廃止	
平成28年度以前入学生	社会調査実習	地域社会調査実習	
平成29年度以前入学生	現代社会論	国際社会論	
	—	地域社会論	卒業要件に含めることができる
	発達心理学Ⅰ	発達心理学	
	—	家族論	卒業要件に含めることができる
	発達心理学Ⅱ	廃止	平成32年度から廃止
	カウンセリング論演習	カウンセリング論	
	—	パーソナリティ心理学	卒業要件に含めることができる
	地域運動論	社会運動論	
	社会・経済政策論	労働・社会政策論	
	組織とネットワークの社会学	廃止	平成31年度から廃止

■国際コミュニケーション学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成 27 年度以前入学生	実践英語対策講座	Introduction to Academic English	
	留学英語対策基礎講座	Intermediate Academic English	
	留学英語対策講座 I	Advanced Academic English I	
	留学英語対策講座 II	Advanced Academic English II	
	英語会話(中級)	Integrated English	
	ディベート&ディスカッション	Introduction to Discussion & Debate	
	エッセイ・ライティング	Essay Writing	
	パブリック・スピーチ	Public Speaking	
	アカデミック・リスニング	Discussion & Debate	
	アカデミック・ライティング	Academic Writing	
	メディアの英語	English in Media	
	イングリッシュレクチャーA	English Lecture A	
	イングリッシュレクチャーB	English Lecture B	
	イングリッシュレクチャーC	English Lecture D	
	イングリッシュレクチャーD	English Lecture C	
	イングリッシュレクチャーE	English Lecture G	
	実践英語演習E	英語 E-learningA	
	実践英語演習 F	英語 E-learningB	
	実践英語演習 G	英語 E-learningC	
	中国語・朝鮮語・ドイツ語・フランス語コミュニケーション 各 II D	中国語・朝鮮語・ドイツ語・フランス語 各留学対策	
	モンゴル語史料購読 I A	モンゴル語史料購読 I	
	モンゴル語史料購読 I B	モンゴル語史料購読 II	
	多民族社会論 B	多文化社会論 B	
	多民族社会論 C	多文化社会論 A	
	ビジネス英語	廃止	
	Japanese Culture and Civilization	廃止	
	国際コミュニケーション論	廃止	
	言語学概論	廃止	
	実践英語演習 A	廃止	
	実践英語演習B	廃止	
	実習英語演習C	廃止	
	実習英語演習D	廃止	
	英語表現法	廃止	
	英語音声学	廃止	
	時事英語	廃止	
	現代思想論	廃止	
	イングリッシュレクチャーF	廃止	
	ドイツ語コミュニケーション II C	廃止	
	フランス語コミュニケーション II C	廃止	
	朝鮮語コミュニケーション II C	廃止	
	中国語コミュニケーション II C	廃止	
	多民族社会論A	廃止	
	欧米文化論 E	廃止	
	—	英語学基礎	卒業要件に含めることができる
	—	English Lecture E	卒業要件に含めることができる
	—	English Lecture F	卒業要件に含めることができる

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成 27 年度以前入学生	—	日本語教育基礎	卒業要件に含めることができる
	—	Debating Global Issues	卒業要件に含めることができる
	—	English for Business	【新科目】「ビジネス英語」未履修者のみ履修可
平成 29 年度以前入学生	現代社会論	国際社会論	
	—	比較宗教学論	卒業要件に含めることができる

■人間看護学科

対象	旧科目名	新科目名	備考
平成 27 年度以前入学生	体のしくみと機能Ⅰ	解剖生理学Ⅰ	
	体のしくみと機能Ⅱ	解剖生理学Ⅱ	
	体のしくみと機能Ⅲ	生化学	
	健康科学Ⅰ	病理学	
	健康科学Ⅱ	微生物学	
	人間性心理論	精神保健論	
	栄養と人間(人間学)	栄養学	
	メンタルヘルスケア	精神保健論 精神看護学概論	
	成人臨床看護学	成人看護学	
	育成看護論	母性看護学概論	
	育成看護論演習Ⅰ	母性看護学	
	育成看護論演習Ⅱ	母性看護学演習	
	育成看護論実習	母性看護学実習	
	在宅看護援助論	在宅看護学	
	精神臨床看護学	精神看護学	
	精神臨床看護学演習	精神看護学演習	
	精神臨床看護学実習	精神看護学実習	
	小児臨床看護学	小児看護学	
	小児臨床看護学演習	小児看護学演習	
	小児臨床看護学実習	小児看護学実習	
	老年看護学演習		
	老年臨床看護学	老年看護学	
	老年臨床看護学演習	老年看護学演習	
	老年看護学実習	老年看護学実習Ⅰ	
	老年臨床看護学実習	老年看護学実習Ⅱ	

※平成 28 年度カリキュラム改正に伴う読替えについては、新カリキュラム開講年度に合わせて順次掲載します。

■教職関係

対象	旧科目名	新科目名	備考	
平成24年度以前入学生	教育方法の理論と技術	教育方法論	教職に関する科目	
平成25年度以前入学生	水文学	環境水文学	中高・理科(生態・資源)	
	材料科学実験	材料科学実験Ⅰ 材料科学実験Ⅱ	高校・理科(材料)	
	電子システム工学演習Ⅲ	電気電子設計製図	高校・情報(電子)	
	情報理論	通信情報理論		
	マルチメディア	通信システム工学		
平成26年度以前入学生	インターネット工学	通信ネットワーク工学		
	材料力学Ⅰ	材料力学	高校・理科(材料)	
	保育学	保育学A 保育学B	中高・家庭(デザ) 中高・家庭(栄養)	
	英語表現法	廃止	中高・英語(国際)	
	時事英語	廃止		
	国際コミュニケーション論	廃止		
	言語学概論	廃止		
	栄養と人間(人間学)	栄養学	養護(看護)	
	体のしくみと機能Ⅰ	解剖生理学Ⅰ		
	体のしくみと機能Ⅱ	解剖生理学Ⅱ		
	体のしくみと機能Ⅲ	生化学		
	健康科学Ⅰ	病理学		
	健康科学Ⅱ	微生物学		
	メンタルヘルスケア	精神保健論 精神看護学概論		
	精神臨床看護学実習	精神看護学実習		
	小児臨床看護学	小児看護学		
	小児臨床看護学実習	小児看護学実習		
	小児臨床看護学演習	小児看護学演習		
	成人臨床看護学	成人看護学		
	平成27年度以前入学生	河川環境学	環境地下水学	中高・理科(生態・資源)
		生物統計学	生物資源統計学Ⅰ	
		環境倫理学	環境公正論	高校・公民(環境政策)
実践英語対策講座		Introduction to Academic English	中高・英語(国際)	
留学英語対策基礎講座Ⅰ		Advanced Academic EnglishⅠ		
エッセイ・ライティング		Essay Writing		
メディアの英語		English in Media		
アカデミック・リスニング		Discussion & Debate		
イングリッシュレクチャーA		English Lecture A		
イングリッシュレクチャーB		English Lecture B		
英語音声学		廃止		
平成28年度以前入学生	機械システム工学実験Ⅰ	機械工学基礎実験	高校・工業(機械) 平成31年度から開講	

■その他資格関係

入学年度の履修の手引で取得可能と記載された資格に加えて、次の資格も取得可能となりました。
必要科目・単位、条件等は教務課までお問い合わせください。

資格名	対象学科
施工管理技士受験資格	環境建築デザイン学科、機械システム工学科、電子システム工学科
地域調査士資格	地域文化学科

(3) 近江楽士（地域学）副専攻関連科目の履修について

I 近江楽士（コミュニティ・ネットワーク）について

近江楽士（地域学）副専攻を修了し、近江楽士（コミュニティ・ネットワーク）の称号を授与されるためには、下表の関連科目から、次に示した修了要件を満たすよう単位を取得する必要があります。

■2014(平成 26)年度以前入学生用

ア 副専攻修了要件

平成 27 年度から、副専攻修了要件が変更になりました。

選択専門科目が修了要件ではなく、基礎選択科目が選択科目に変わりました。

必修科目	： 2 科目 4 単位
選択必修科目から	： 4 科目 8 単位以上
選択科目から	： 2 科目 4 単位以上
計	： 8 科目 16 単位以上

イ 副専攻科目配当表

① 必修科目：2 科目 4 単位

科目名	配当年次	単位数	備考
地域実践学Ⅰ(注1)	1, 2, 3, 4・前	2	「地域デザインB」で読替
地域実践学Ⅱ(注1)	1, 2, 3, 4・後	2	「地域デザインC」で読替

② 選択必修科目：4 科目 8 単位以上

科目名	配当年次	単位数	備考
地元学入門		2	廃止
地域探求学	1・後	2	「地域コミュニケーション論」で読替 人間学科目
地域行動論	3・後	2	「問題解決デザイン論」で読替
地域再生システム論(注2)	1, 2, 3, 4・前	2	「地域デザインA」で読替
地域診断法	2・後	2	
地域づくり人材論	1, 2, 3, 4・後	2	

③ 選択科目：2 科目 4 単位以上

科目名称		配当年次	単位数	備考
人間学	人間の行動と空間(注3)		2	廃止
	材料史	1, 2, 3, 4・前	2	
	比較都市論	1, 2, 3, 4・前	2	
	比較住居論(注4)	1, 2, 3, 4・前	2	
	生命・人間・倫理	1, 2, 3, 4・後	2	
	びわこ環境行政論	1, 2, 3, 4・後	2	
	(近江文化論)	1, 2, 3, 4・後	2	「近江の歴史と文化」で読替
	(社会福祉論)	1, 2, 3, 4・後	2	「地域社会福祉論」で読替
	滋賀の自然史		2	廃止
	自然科学の視点	1, 2, 3, 4・後	2	
	機械技術と人間	1, 2, 3, 4・後	2	「機械の再発見」で読替
	電子社会と人間	1, 2, 3, 4・後	2	
	国際協力論(注5)	1, 2, 3, 4・前	2	偶数年度開講
	多文化共生論(注5)	1, 2, 3, 4・前	2	奇数年度開講

科目名称		配当年次	単位数	備考
環びわ湖大学・地域 コンソーシアム単位 互換科目	滋賀論(聖泉大学)	1, 2, 3, 4・夏 季 集 中	2	廃止
	滋賀の環境(びわこ学院大学)	1, 2, 3, 4・後	2	
	近江学A(成安造形大学)(注5)	1, 2, 3, 4・前	2	
	近江学B(成安造形大学)(注5)	1, 2, 3, 4・前	2	平成29年度不開講

(注1) 2011(H23)入学生は「地域実践学実習Ⅰ」「地域実践学実習Ⅱ」に読み替える。

(注2) 環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生活デザイン学科においては各学科の専門科目であり、専門科目の配当年次に従って履修すること。

(注3) 2012(H24)以前入学生で「環境行動論」を履修済みの学生は履修不可。

(注4) 生活デザイン学科、生活栄養学科、人間関係学科の学生については、専門科目として扱われる。

(注5) 隔年開講

■2015(平成27)年度入学生用

ア 副専攻修了要件

必修科目	: 3科目 6単位
選択必修科目から	: 1科目 2単位以上
計	: 4科目 8単位以上

イ 副専攻科目配当表

① 必修科目：3科目 6単位

科目名	配当年次	単位数	備考
地域診断法	1・後	2	
システム思考法	2・前	2	
問題解決デザイン論	2・後	2	

② 選択必修科目：1科目 2単位以上

科目名	配当年次	単位数	備考
地域デザインA(注1)	2, 3, 4・ 前	2	コミュニティ・ネットワークコースは地域デザインAまたはB、 ソーシャル・アントレプレナーコースは地域デザインCまたはD の選択科目を履修することを推奨します。
地域デザインB	2, 3, 4・ 前	2	
地域デザインC	2, 3, 4・ 後	2	
地域デザインD	2, 3, 4・ 後	2	

(注1) 環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科は「地域再生システム論」に読替え、専門科目として扱う。

II 近江楽士(ソーシャル・アントレプレナー)について

平成28年度より、近江楽士(ソーシャル・アントレプレナー)コースが新設されました。

近江楽士(地域学)副専攻を修了し、近江楽士(ソーシャル・アントレプレナー)の称号を授与されるためには、下表の関連科目から、次に示した修了要件を満たすよう単位を取得する必要があります。

近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）コースの履修を希望する学生は、履修届を提出してください。

なお、コミュニティ・ネットワークコースおよびソーシャル・アントレプレナーコースの両方の履修を希望する場合は、それぞれの要件を満たすことが必要となります。そのため、地域デザインA、B、C、Dの履修においては、少なくとも2科目の履修が求められることに注意してください。

■2016(平成28)年度以前入学生用

ア 副専攻修了要件

必修科目	: 3科目6単位
選択必修科目から	: 1科目2単位以上
計	: 4科目8単位以上

イ 副専攻科目配当表

① 必修科目：3科目6単位

科目名	配当年次	単位数	備考
経営学序論	2・後	2	
地域社会とキャリア創生	2・前	2	「地域社会と女性キャリア創生」で読替
地域中小企業講座	3・前	2	

② 選択必修科目：1科目2単位以上

科目名	配当年次	単位数	備考
地域デザインA(注1)	2, 3, 4・前	2	コミュニティ・ネットワークコースは地域デザインAまたはB、ソーシャル・アントレプレナーコースは地域デザインCまたはDの選択科目を履修することを推奨します。
地域デザインB(注2)	2, 3, 4・前	2	
地域デザインC(注3)	2, 3, 4・後	2	
地域デザインD	2, 3, 4・後	2	

(注1) 平成26年度以前入学生は「地域再生システム論」に読み替える。

生活デザイン学科の平成26年度以前入学生・環境政策・計画学科および環境建築デザイン学科の平成27年度以前入学生は「地域再生システム論」に読替え、専門科目として扱う。

(注2) 平成26年度以前入学生は「地域実践学Ⅰ」に読み替える。

(注3) 平成26年度以前入学生は「地域実践学Ⅱ」に読み替える。